

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 11月 12日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670600164号
法人名	有限会社 花
事業所名	ふれあいホーム花
所在地	鹿児島県阿久根市西目6283-2 0996-72-7171
自己評価作成日	平成24年10月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境で、自然がいっぱいである。  
できるだけ、地元の食材を使用し、おいしいものを食べるように取り組んでいる。  
職員同士も積極的に勉強会に参加し、入居者、スタッフとも良好な信頼関係を築き、楽しく介護や仕事ができるようにしている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年11月6日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を緑に囲まれた小高い場所に平成16年に1号棟を開設、24年には2号棟をオープンさせている。周囲には季節の花や野菜が植えられ、平屋造りのホーム内も花や観葉植物に囲まれ、名称どおり花のホームである。2号棟の多目的ホールは利用者、職員、地域住民の行事、研修、体力づくりなどの活用場として今後、希望、期待の大きいホームである。  
職員、利用者が清潔好きで掃除が行き届いている。  
明るいホームのリビングから直接出ることのできるテラスからの眺めは絶景でホームにいながら四季を感じ取ることができ、癒やされる環境である。  
地域との交流もあり、運営推進会議にも多くの地域住民が参加している。参加者からは活発な意見、要望が出され、避難訓練時も全員の参加が得られるなどホームの運営、サービス向上に活かされている。  
広い多目的ホールは地域の方々の参加も得て、敬老会などの行事にはボランティアの踊りの慰問、ヨガ教室開催、災害時の避難場所として交流に活かされている。  
重度化、看取りについての経験もあり、看護師も常勤し、密な健康管理ができているので利用者、家族の安心に繋がっている。  
猫たちも利用者と一緒にゆったりと時を過ごし、アニマルセラピー効果をあげているホームである。

1号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームに3カ所理念を貼り、勉強会やミーティングで、理念をいつも念頭にケアが実践できるように取り組んでいる。	代表者の思いがこもった「優しさ、温もり、楽しみ、ふれあい、美味しさ」の理念を作成している。ふれあいに補足として地域の方との交流を大切にしたい文言がある。日々の暮らしの中に楽しみや美味しさを実感し、生きがいを持てるような支援を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事（盆踊り、運動会、清掃活動、鬼火たき等）声をかけていただき参加している。地域の方が踊りなど慰問もある。	自治会に加入し、盆踊り、運動会、清掃活動などに利用者、職員共に参加している。ホームの催しに地区住民も招待している。中、高校生、市民病院新人職員の研修も受け入れている。2号棟の多目的ホールではヨガ教室を開いて地域住民にも参加を呼びかけている。今後は認知症教室なども検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	同業者の協議会の中で、地域住民や市町村を巻き込んだ認知症ケアの研修を検討中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで抱える問題（風水害、火災時や不明者）について運営推進員や職員と話し合いを持ったり、地区の行事に参加させていただいている。	定期的に多くの地域住民参加を得て開催されている。避難訓練に絡ませて行うこともあり、災害時の安全対策の話し合いもできている。参加者から意見、提案も活発にあり、充実した会議はサービス向上に活かされている。	

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々、いろいろな問題に直面したりして相談すると快く対応していただき、助かっている。	相談事には助言を貰うなど連携を図っている。高齢の利用者にはお祝いを市より届けて貰っている。行政も地域密着型サービス事業所の声を拾い上げ、共に取り組んで行く体制ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	宣言書を掲げ、身体や生命の危険を及ぼさないことを確認し、できるだけ拘束を実施しない方向でケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止宣言」を、ホーム内に掲示しているが、リスクを伴う事例には家族に説明し、同意書を貰っている。Y字帯を使用している利用者もおり、毎月のケアカンファレンスで検討会を行っている。外部研修に参加した職員は復命研修を行い、全職員が拘束を実施しない方向でケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	協議会で虐待防止についての勉強会を開催し、同業者同士でも虐待防止について知識を深めケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村主催の青年後見制度の勉強会に参加し、権利擁護理解に努めている。		

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は家族に契約書の説明を実施し、利用料金など分かりにくい部分は細かく説明している。わからない部分はなかったか確認し、了解していただいたら署名捺印をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者との会話の中や家族の面会時など希望を聞き、外出、外泊などの希望がかなえられるようにしている。	花便り、年、4回発刊している。運営推進会議でも家族代表から活発な意見、要望が出されている。日常の面会・電話連絡時にも聞く機会を設けている。敬老会に家族会を絡ませ、意見を貰っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やミーティング時など、職員の意見（シフト、勤務形態など）を聞き、できる部分は運営に反映している。	毎月、職員会議を行い、連絡ノートの活用などで情報の共有もできている。職員だけのミーティングを各棟で実施、また、職員向けのアンケートも年1回行い、働きやすい職場環境づくりを心掛けている。資格取得支援も行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の免許習得や勤務状態により、給与水準や介護処遇改善交付金の料金を決めている。勤務態勢も職員の希望を取り入れて作成している。		

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地区のグループホーム協議会に入り、他の施設との交流や勉強会に参加している。介護福祉士、ケアマネジャーの資格習得も勧めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>いずみ、川薩地区のグループホーム協議会に入り、他の施設との交流や勉強会に積極的に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームに訪問してもらい、利用者の生活歴や希望を聞き、第一印象を大切に、笑顔で接することができるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族のこれまでの経過など、家族の心情を踏まえて話ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が施設使用料金など不安な状況が見られることがあるので、他施設の情報を提供したり、入所申し込み等の説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員は家族のように共に生活し顔なじみの関係で、親しく語らったり、一緒に掃除、洗濯等を実施している。		

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の急な病院受診など家族に連絡をしたり、敬老会など一緒に食事をしていただいたり等、利用者、家族、職員とのコミュニケーションがとれるように取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方の入所者が多いこともあるが、地区の盆踊りや運動会に参加したり、踊りの慰問があったりして交流を深めている。	日常的に地域の友人、知人の訪問があり、野菜などの差し入れがあったり、時にはホームで食事をして帰る近隣住民もいる。墓参り、理美容院、冠婚葬祭の参加など家族の支援をもらってなじみの人や場との関係継続を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で食事や病気の心配をしたり、お世話をしたりして家族のような場面がみられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院したり、施設に入所された方のお見舞いや面会に行き、必要があれば病院退院後の施設を探したりの連絡調整を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向をなるべく尊重し、希望を取り入れる。自宅への暮らしを望まれる方に対しては外出、外泊を家族へお願いしている。	管理者は利用者一人ひとりの思いにじっくり耳を傾け聴いている。職員も日常会話の中で本人の思いや意向を把握するようにし、可能な限り思いをかなえられるように家族の協力を貰いながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段のコミュニケーションから利用者本人あるいは家族からの回顧録を聞き、施設内での生活環境に良好な関係を築く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの日常生活動作を把握し、洗面、排泄、着替え、食事、掃除、入浴等個人でできる範囲は見守り、状況に応じ援助を実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の視点から見たスタッフ全員との意見交換を行い、問題点や利用者本人の“できる範囲”を位置づけ、介護計画に反映させている。	地域の人達との交流、催しへの参加、機能訓練を介護プランに掲げ、担当者に職員以外の家族、地域の人達、ボランティアが入っている。定期的な見直しは6ヵ月毎にし、変化があれば随時見直しをしている。	



鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個別経過記録や実践記録より利用者の異常の早期発見、事故防止に努めている。また、介護計画の評価を行い、ケアプランに生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入院中の利用者の退院時などに関わる手続き、がん終末期など治療より疼痛緩和が中心の利用者の対応、インスリン自己注射の利用者の対応ができるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地区の運営推進委員や婦人部の方々に協力をもらいながら、地区の盆踊りや運動会等へ参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診が必要な場合は、家族に連絡を取り、歯科や専門医受診を実施している。</p>	<p>かかりつけ医の往診は月、1回、定期的にある。受診は本人、家族の状況に応じてホームより柔軟に支援している。家族が同行する際は情報提供書を作成し、情報を記載している。医療連携体制を取っていて、ホームにも看護師が3名勤務し、健康管理も密にできている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、ホーム内スタッフとしての情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの職員の中に、看護師3名、准看護師2名勤務しており、急変時の対応や健康管理を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院入院時は各病院の連携室の職員と連絡調整をし、退院の時期を調整したり、連携病院の勉強会に参加したりして協力体制が取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と利用者の希望を聞きながら、今後の対応について話し合い、職員同士でも情報を共有しケアに取り組んでいる。	重要事項に「医療連携体制加算同意書及び説明書」として附則文書を作成、入居時に説明している。ホームで看取りに対応する方針で、看取りケアマニュアルも作成している。身体状況に応じて「重度化、看取り支援に関する意向確認書」を作成し、確認を取っている。看取り経験もあり、職員も方針を共有し、ホームで出来る最大限の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応ができるように、消防署職員（救急救命士）による救急蘇生の訓練やAEDの使用方法を全職員が使用できるように研修を受けている。		

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害に向けて消防訓練や水の備蓄、太陽光発電や雨水タンクなど備え、地域の避難場所としての使用もできるようにしている。</p>	<p>年2回夜間想定避難訓練を実施している。運営推進会議にからませて実施、消防分団、家族、地域住民の参加も得ている。災害時はホームが地区の避難場所にもなっている。スプリンクラーも設置済みで、備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場での勉強会の中で、利用者の人権に配慮した対応（声かけ、ケアなど）について話し合ったり、日々のケアの中で、気がついたら互いに注意している。	認知症に配慮したケアが出来るように定期的な勉強会を持っている。声掛け（命令形、幼児語）、声のトーンが高くなったり、利用者が嫌がる事を言わない、しないなど自分に置きかえて考えるよう、職員の意識向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出できない方は、家族から情報収集し、できるだけ希望が叶えられるようにしている。献立や他に希望することは聞き自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレクリエーション参加など無理強いしないように勧め、いやがるときは強制しないで、本人の過ごしたいようにしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者が使い慣れた化粧道具や、希望の装いをしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の個々の好き嫌いを把握し、その人にあった調理をし、喜んでいただいている。利用者も進んで、下善などに参加している。	畑もあり、収穫を楽しみながら旬の新鮮な食材で美味しい食事を楽しんでいる。晩酌、喫煙もこれまでの生活習慣の継続として支援している。外食やホームでの芋煮会、弁当持参の花見、誕生会など場を変えて楽しんでいる。	

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを把握し、美味しく、楽しく食事や水分がとれるように喉ごしの良いものの工夫をしている。毎日食事、水分量のチェックを実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に応じた口腔ケアを実施している。口腔内の観察や訴えを聞き、歯科受診や往診をしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の羞恥心に考慮しながら入居者全員にトイレ誘導し、トイレで排泄ができるように援助している。	排泄チェック表を作成し、オムツ使用はしない方針でトイレでの排泄を支援している。自立している利用者や入居後に改善された利用者に対しても継続できるよう、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたり、芋類の摂取や乳製品、水分摂取をを促し、機能訓練をしたりとできるだけ、自然排便があるように取り組んでいる。		

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の時間や曜日を決めてあるが、利用者の体調や希望を聞きながら時間、曜日に関係なく、いつでも入浴ができるようにしている。	週3回を基本にしているが本人の希望に沿って柔軟に支援している。毎日、入浴している利用者もいる。自立している利用者にも職員の見守りで安心して入浴を楽しんで貰っている。温泉行きも検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団を天日に干したり、シーツを洗濯したりして気持ちよく休むことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会の中で、薬表の見方を勉強したり、副作用について看護師に尋ねたりと、日々の業務の中でも服薬には気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや外食など、利用者の希望を取り入れながら実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に帰宅願望の強い利用者など自宅周囲をドライブしたり、お線香を上げに行ったり、家族に電話をしたりしている。	ホーム周辺の畑に行ったり、日課にも散歩を取り入れている。年間行事に花見、ソーメン流し、地域行事参加、外食など計画し、支援している。近くのグループホームと行き来し、花見や食事会を楽しんでいる。	

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができる方は少ないが、自分で所持していないと不安な方もいるので、所持していただき、時々、移動販売で好きなものを購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者が電話をかけたいときなどには、家族に電話ができるようにしている。仕事中などは、携帯の着信で家族より折り返し電話がある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎朝、日勤スタッフと掃除に参加できる入居者はハンディーモップ等で掃除を実施している。庭掃除などでは、庭先の草花をみながら季節感も感じている。</p>	<p>掃除が行き届いており、明るく過しやすい共用空間である。テラスからの眺めも良くホームにしながら四季を感じる事ができる。また、広いテラスは日光浴にも最適でリビングから直接出る事ができるので開放感がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>談話室で楽しく家族とカタラったり、自室でテレビを見たり等毎日、好きなように過ごしている。</p>		

鹿児島県 ふれあいホーム花 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使い慣れた、ベッドや寝具、遺影など持ってきていただき、使用していただいている。	ベット、寝具も持込みでテレビ、位牌、タンス、椅子や家族の写真を飾ったり、利用者の好みに応じた居室を提供している。本人の希望や身体状況を見て、フローリングに畳を置いて、布団を敷く等工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を取り込んでいただいたり、干したりたたんでいただいたりなど、利用者一人ひとりの能力に応じケアプランに反映してケアを実施している。		



**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない